

# 高齢の摂食嚥下障害患者のリスクマネージメントにおける管理栄養士の役割

小原 仁<sup>†</sup> 半澤里紗 榎本雄介  
松井貴子 舘田 勝\*

第76回国立病院総合医学会  
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol.78 No. 1 (44-48) 2024

## 要旨

高齢の摂食嚥下障害患者に対するリスクマネージメントにおいて、入院時の摂食嚥下機能を正確にアセスメントすることや摂食嚥下に関する患者情報を職種間や医療チーム内で共有することは重要である。管理栄養士は、入院患者をはじめ、重症患者、手術患者および栄養障害患者に対する栄養管理計画において、各職種と連携を図りながら食事摂取状況をアセスメントして栄養補給経路および食形態等を決定している。リスクマネージメントにおける管理栄養士の役割としては、施設で提供する食事の形態の整備、チーム医療での管理栄養士の立場からの治療に関する提案があげられる。施設における食事の形態の整備では、嚥下調整食の段階分類を示した嚥下調整食分類に準じた食事が提供できる体制を整備するとともに、患者個々の摂食嚥下機能に適した食形態の食事を提供することによって、誤嚥性肺炎および窒息の防止だけではなく、低栄養の改善や栄養状態の維持にもつながる。チーム医療での管理栄養士の役割としては、摂食嚥下支援チームや栄養サポートチーム等のチーム医療の中で、診療全体に関する情報を理解して多職種で患者情報を共有しながら、管理栄養士の立場から摂食嚥下障害患者に対して個々の病態や症状等に合わせた栄養管理に関する提案能力が求められる。

高齢患者は、摂食嚥下障害のリスクは高く、数日間の絶食でも廃用が進行して摂食嚥下機能が低下して摂食嚥下障害を発症する場合や通常の食事量が摂取できない場合がある。高齢患者に対する正確な摂食嚥下機能の評価、摂食嚥下機能等の変化に関する情報共有、美味しく安全に食べられて必要な栄養素を補給できる食事の提供は重要であり、これらを踏まえたリスクマネージメントを実施することが、誤嚥性肺炎および窒息を防止し、さらには低栄養およびサルコペニアの予防にもなり、高齢の摂食嚥下障害患者の安全管理につながると考えられる。

キーワード：摂食嚥下障害、高齢患者、リスクマネージメント、管理栄養士

国立病院機構仙台医療センター 栄養管理室 \*耳鼻咽喉科・頭頸部外科 †管理栄養士  
著者連絡先：小原 仁 国立病院機構仙台医療センター 栄養管理室  
〒983-8520 宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目11番12号  
e-mail : obara.hitoshi.as@mail.hosp.go.jp

(2023年3月9日受付 2023年8月4日受理)

The Role of Registered Dietitian on the Risk Management of the Elderly Patients with Dysphagia

Hitoshi Obara, Risa Hanzawa, Yusuke Enomoto, Takako Mastui, and Masaru Tateda\*

Department of Nutrition Management, \*Department of Otorhinolaryngology - Head and Neck Surgery, NHO Sendai Medical Center

(Received Mar.9, 2023, Accepted Aug.4, 2023)

Keyword : dysphagia, elderly patients, risk management, registered dietitian